

高等学校歴史総合における OPPA 活用の意義と課題

—第一次世界大戦を題材として—

教科教育・特別支援教育プログラム 言語・文化・社会グループ
日下部 凌

1. はじめに

今日、評価の在り方は一つではなく、学びの多様性に
応じた多様な評価が目指されている。多様な評価方略の
1つとして、OPPAがある。OPPAは、One Page
Portfolio Assessmentの略であり、一枚ポートフォリオ
評価と呼ばれている。堀(2022)によれば、OPPAとは
教師のねらいとする授業の成果を学習者が一枚の用紙
(OPPシート)の中に学習前・中・後の履歴として記録
し、その全体を学習者自身が自己評価する方法である。
OPPAを用いた授業実践は、主に小学校で多くなされて
おり、中学校、高等学校でも多くの教科・科目でなされ
ている。しかし、高等学校地理歴史科の歴史総合におい
てはOPPAを用いた授業実践がなされていない。

本稿では、未だ授業実践がなされていない、高等学校
歴史総合においてOPPAを活用した授業を実施し、その
意義と課題について考察することを目的とする。

2. 先行研究

OPPA自体は評価方略の一種であるが、児童生徒が自
身の変容を認識することができたり、教師が自身の授業
改善に役立てることができたりするなど、様々なメリッ
トが付随する。社会科においては、これまで主に教師の
授業改善を研究目的として授業実践がなされてきた。

石原・堀(2014)は、①小学校第5学年社会科「これ
からの食料生産」における問題解決的な学習の授業改善
サイクルを検討すること、②改善した授業を実施し効果
を検証するとともに授業改善の知見を得ること、の2点
を目的として、小学校第5学年を対象とした授業実践を
行った。この授業実践の結果の検証として、石原は生徒
の記述から社会の見方・考え方・感じ方の変容があった
としている。①、②の目的とは直接関連しないが、小学
校社会科において、OPPAを取り入れて生徒の思考の変
容を促し、評価材料となるような生徒の記述を引き出す

ことができている。

池本(2020)は、講義形式の授業では育成が難しい生
徒の思考力・判断力・表現力等を高めることを目的とし
て、OPPシートも活用し、中学校第1学年を対象とし
た授業実践を行った。OPPシートに書かれた生徒の記述
から授業の効果を検討し授業改善を図った石原・堀
(2014)や中国・堀(2017)とは異なり、池本はOPP
シートを取り入れて生徒が表現活動を行う機会を確保す
ること自体が授業改善となり得ると考えた。なお、池本
はこの研究にあたって、OPPシートの活用だけでなく
「比較を通して考える場の設定」や「逆向き設計論に基
づくパフォーマンス課題の設定」も併せて実践し、効果
を検証した。

この授業実践の検証をOPPシートに関連する内容に
限定すると、OPPシートの生徒の記述からは、生徒が既
習の時代と比較していることを見取ることができ、思考、
判断、表現するための視点を身に付けることができた
と判断している。中学校社会科においてもOPPシートを
活用することによって思考、判断、表現する力を身に付
けることができていることは、OPPシートを有効に活用
することで社会科においてもOPPシートの記述内容を
評価材料として用いることができることを示唆している。

3. 研究方法

高等学校歴史総合においても、注目されている評価方
略の一つであるOPPAを活用することで、生徒の記述を
複数の尺度で捉えることができ、適切な評価を行うこと
につながると考えられる。

研究方法としては、高等学校歴史総合においてOPPA
を用いた全4回の授業実践を行い、生徒の記入したOPP
シートを回収し、記述内容からOPPAの意義と課題を分
析、検討する。全4回の授業実践における構成イメージ
は表の通りである。

表 全4回の授業実践における構成イメージ

時間	各授業のテーマ	学習前後に取り組み本質的な問い	自己評価
第1時 (学習前)		第一次世界大戦は何をもたらしたのだろうか？	
第1時	バルカン半島はなぜヨーロッパの火薬庫と呼ばれたのだろうか？		
第2時	なぜ第一次世界大戦を期に社会主義国家が誕生したのだろうか？		
第3時	アメリカが主導したワシントン会議にはどのようなねらいがあったのだろうか？		
第4時	第一次世界大戦後の西ヨーロッパ諸国ではどのような国内問題があったのだろうか？		
第4時 (学習後)		第一次世界大戦は何をもたらしたのだろうか？	
第4時 (学習後)			OPPシートを記入してみたの自己評価

4. 結果

自己評価の欄について、OPPシートを用いたことについて直接言及している記述は、直接言及していない記述に比べて少なかったものの、いずれの記述も自己評価自体は肯定的なものがほとんどであった。ただし、少数ではあるが、「記述やまとめが苦手だと気付いた」、「授業の内容を自分の言葉でまとめるのが難しかった」、「矛盾した考えしか記述できていないことに気付いた」という記述もあった。これらの記述については、肯定的な自己評価ではないが、自分の記述や思考について自覚を促すことができている点では有意義であったといえる。

生徒によるOPPシートの記述についての傾向から、学習前と学習後を比較すると、社会主義国家の誕生や当時弱い立場にあった人々の権利向上などの第一次世界大戦前後における大きな変化を捉えたり、具体的な用語を用いて記述したりすることができるようになっていいることが分かる。また、生徒個人のレベルでも、学習前と学習後で同様の変化が起こっている生徒が多かった。

また、生徒の自己評価における記述についてはほとんどが肯定的な記述であり、肯定的とはいえない記述についても、生徒自身の記述や思考について自覚を促すことができている点では有意義であったといえる。

5. おわりに

本稿では、未だ授業実践がなされていない、高等学校

歴史総合においてOPPAを活用した授業を実施し、その意義と課題について考察することを目的とし、OPPAが評価方略の1つとして注目されていることを論じた上で、全4回の授業実践を行い、高等学校歴史総合においてOPPAを活用したことの意義や課題を挙げた。

OPPAはOPPシートの記述から生徒を様々な尺度で評価する方略の1つであるから、OPPシートの記述内容に様々な変化や傾向がみられる必要がある。また、当然ながらOPPシートを用いることが生徒にとって有意義である必要がある。高等学校歴史総合においてOPPAを活用した本授業実践は、歴史総合における用語の現れや思考、捉え方の変化など、生徒の記述内容に様々な変化や傾向を認めることができ、OPPシートを用いることが生徒にとって有意義であることも認めることができた。

本授業実践においては課題があっただけでなく、筆者の裁量でOPPシートの一部を工夫したこともあり、意義や課題について論じる上で検討を必要とする点が多くうまれている。本授業実践において回収したOPPシートの数は40であり、十分な数ではないため、今後、OPPシートの母数を確保し、研究方法に留意しながら、高等学校歴史総合におけるOPPAの意義と課題について再検討を加えたい。

〈参考文献・参考URL〉

- ・池本豊 (2020) 愛知教育大学教育実践研究科 (教職大学院) 修了報告論集, 11, 351-360, 2020-03.
- ・石原裕, 堀哲夫 (2014) 教育実践研究, 19, 181-193, 2014.
- ・遠藤貴広 (2003) 教育目標・評価学会紀要, 13, 34, 2003.
- ・木村靖二 (2022) 山川出版社, 75.
- ・社会認識教育学会 (2012) 明治図書.
- ・田中耕治 (2008) 岩波書店, 71-72,147.
- ・中國昭彦・堀哲夫 (2017) 教育実践学研究, 22, 125-142, 2017.
- ・堀哲夫 (2022) 東洋館出版社, 34-56,116-130,206-259.
- ・山口陽弘 (2013) 群馬大学教育学部紀要 人文・社会科学編, 62, 166, 2013.
- ・文部科学省「学習評価の在り方について」
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryu/attach/1364317.html)